


八瀬の里だより

協力  社会福祉法人 芳清会

■発行 社会福祉法人芳清会 理事長 岡田 力
〒350-1172 埼玉県川越市大字増形164番地
TEL 049-247-7311(代表) FAX 049-247-7312
<https://www.houseikai-y.jp/> yasenosato@houseikai-y.jp

2023年1月

第25号

新春のごあいさつ

社会福祉法人 芳清会

理事長 岡田 力

謹んで新年のご挨拶を、申し上げます。

コロナ発症騒ぎから三年、如何に「この病」しつこい
かあきれてしまいます。この病の影響で人間の思考、行
動が大きく変化し悪しき方向にむかっている、人間の
繋がり善き風習・新年早々縁起起でもなく、つまらぬ
ことを書いてしまいました。

施設状況でございますが、旧年中にコロナ感染騒
動がございましたが、数日で平穏に戻りました。その後
現在は、インフルエンザが影を潜め平穏でございます。

本年は、当施設もオープン開所十八年を経過、設備
等が耐用年数を過ぎ、この夏季を中心に大規模修理を
計画しております。工事中はご迷惑無き事を期して参
ります。

「形あるものは壊れる」とはいえ耐用年数を経過素
管が著しい。

何時も「心」にあるが元に、戻るか危惧するものの一
人である。日本人の良き考え善き習慣等。

重ね重ね本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

令和五年 元旦

新年に当たり

特別養護老人ホーム 八瀬の里

施設長 岡田 哲

新年あけましておめでとうございます。

皆様、ご家族そろって穏やかな新年を迎えられたことと
思います。

コロナ発症から3年経ちましたが依然、消え失せる方向
は見えず、世界で64600万人が罹患、660万人の死
者があります。日本でもワクチン接種が五回あり又、この
冬はインフルエンザの危険も予想されていますので皆さ
んご家族含め十分注意してください。昨年度は二度の悪夢
を見ましたが職員皆様のご協力で最低限で食い留めて頂
きました。先ずは出さないことを念頭に。今年は無年。一
般的には静かで行儀よく・温厚・上品・繊細・愛嬌ありと
言われており捉え方によっては施設理念の忠恕と合致す
るのでは。事業では開設以来一八年経過し各設備の入替修
繕など多大な費用が嵩む中ですが心配せず、コロナに打ち
勝ち、今年こそ盛大な敬老会・八瀬の里祭り・忘年会が開
催される事を望みます。BCP対策も最終年度に入りま
す。皆様のご協力お願い致します。繰り返しになりますが
コロナなど感染症に関しては皆様、常に十分注意されてい
ると思いますが“持ち込まず” “持ち出さず” を念頭に。
そしてご利用者様・ご家族様から愛される八瀬の里を目指

社会福祉法人 芳清会

特別養護老人ホーム八瀬の里

ショートステイ八瀬の里

デイサービスセンター八瀬の里

居宅介護支援事業所八瀬の里

生計困難者に対する相談支援事業



してください。

最後になりますが皆様・ご家族様の益々のご健勝・ご多幸を祈願し年頭のご挨拶といたします。

令和五年 元旦でより一層の注意をするようお願いいたします。さらに近年、自然災害に対するBCP 防災対策等もあり職員の方には介護面だけでなくあらゆる角度から利用者様への支援を要求されておりますのでスクラムを組んで取組んで下さい。介護につきましては施設理念であります『忠恕・敬愛・感謝』を履行し、『勤務の五訓』を守り職員一同、チームワークで利用者様・ご家族様から愛される職場にして下さい。

最後になりますが皆様・ご家族様の益々のご健康・ご多幸を祈願し年頭のご挨拶といたします。

令和五年 元旦

新年のご挨拶

社会活動回復の中で

生活相談員 遠藤 孝治

新年明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症対策として、ご入居者様及びご家族様の直接面会を実施できずご不便をお掛けした年でした。

職員においても、感染症対策として不要不急の外出を控えてもらい、その家族へもストレスを与えてしまった年でした。

今もなお、感染の終息が見えぬまま年を越してしまいましたが、世間一般ではW I T H コロナで

社会活動が活発化しております。そんな中においても、医療機関の方や高齢者福祉施設関係の職員においては感染症対策を施し、入居者様の安全を確保しなければならず、世間との乖離を感じる日々を送られているかと思えます。

世界経済を見れば、社会活動は活発にせざるを得ない状況である事は素人目にも理解できますが、世間一般が感染症対策をしないで買い物やレジャーを楽しむ事には些か疑問を感じます。

ドイツの社会学者ユルゲン・ハーバーマス氏が、著書「他者の受容」の中で「今の日本人に言える事はすっかり個人主義になってしまった事が残念でならない。近代的な建物やインフラは素晴らしいが、全ての事に於いて他者の責任は追及するが自分の行動や言動には全く責任を取らなくなってしまった。以前は他者を思いやり、自身を犠牲にしてもコロナを大切に育んできた事を懐かしくも、それが衰退してしまった事が残念でならない」とあります。

私自身、家族や友人は大切にしているが、日々の生活の中で他者を思いやり行動できているか、考えさせられた内容でした。弊所にご入居されている皆様は、多分にハーバーマス氏が言う「優れた日本人」である事に疑いの余地はありません。今後も師として、日々の時間を共有できたらと思います。

コロナ禍での行事開催

特養介護支援専門員 黛 裕子

新年あけましておめでとうございます。今年の一月中で新型コロナウイルス感染症が発症してから丸三年が経ちました。行事中止や直接面会自粛も三年が経過したことになります。

そんなコロナ禍の中でも入居者様に楽しんで頂こうと、職員も様々な企画をしておりますので、少しご紹介いたします。



まず、毎年六月には施設の隣にあるゴルフ場の梅の木で、入居者様に梅狩りを楽しんで頂いております。施設の中におられることが多い入居者様にとっては、外の空気に触れることでリフレッシュされ、とても生き生きされた表情を見せてくださいます。その笑顔に職員も癒されています。梅を取った後は、管理栄養士が梅酒や梅ジュースにしています。

九月には敬老会を開催いたしました。対象の入居者様と職員のみで肅々と行い、その様子をビデオに収めDVDを作成し、ご家族様に郵送させて頂きました。また、表彰の様子を直接ご家族様に見て頂きたいという職員の強い要望にて、ご家族を招いての窓越しでの表彰授与を追加で開催させて頂きました。



十月には八瀬の里祭りの代わりとして、各フロアにて屋台レクを開催いたしました。焼きそば・たこ焼き・おでん・焼き芋・フランクフルト・あんみつ・ラムネ等々、フロア毎に職員がメニューを考え、買い物や調理をし、法被を着てのぼり旗も掲げ、屋台の雰囲気作りにも力を入れました。入居者様も自分で好きな物を選び、日頃と違う物を召し上がり、とても喜ばれておりました。

十二月には恒例のクリスマス会を各フロアにて開催いたしました。職員による演奏や、くじ引きによる景品を用意したり、パンケーキやフルーツを職員が調理したり、フロア毎に内

容は様々ですが、どの階も入居者様を楽しませたいという想いは一緒です。今後も様々な企画を行っていききたいと思えます。



介護を始めてみて

特養三階介護職員 奈良 英樹

令和二年十月一日より辞令を受け、特養3階のふじに配属となり介護の道を歩み始めました。

この歳での再出発を選んで大変だろうなと思つて覚悟していましたが想像以上に大変な仕事だなと感じる毎日です。

先ずは先輩方のやり方を良く観察して真似ることで勉強させて頂こうと考え、オムツの装着などを真似させてもらい自分で装着してみると鼠径部に隙間が出来て尿漏れの原因となり先輩方に迷惑をかけるなどしたり、入居者様の衣類を濡らすことになり寒い思いをさせてしまうなど毎日、反省でした。人のお世話をするお仕事は、こんなにも繊細なんだなと痛感した次第です。介護の仕事を始め、とても身体的に精神的にも辛くて帰宅するとベッドに倒れこんで寝ることも頻繁にありました。唯一、救われたと思ったり遣り甲斐を感じられた言葉が、入居者様の「ありがとう。」と感謝のお言葉を頂いたことで元気が貰えたようで、これ以上に勝る喜びはないとおもえるのです。

今後も入居者様の笑顔が見られるよう先輩方の技術を見習い勉強させて頂き、笑顔を増やしていきたいと考えます。

介護の奥深さ難しさを感じる毎日ですが少しでもお役に立てるよう努力して参ります。

新年のご挨拶

コロナ禍においてのレクへの楽しみ

特養四階介護職員 安彦 賢

新年あけましておめでとございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて四階のレクリエーション活動について一部ご紹介させて頂きます。新型コロナウイルスの影響もあり外出や面会に制限がある中少しでも入居者様に楽しみの提供や季節の訪れを感じて頂ける様、昨年四月に施設玄関前でお花見、八月にかき氷レク、十月に屋台レク、十二月にはクリスマス会を開催させて頂きました。桜の季節には外の空気に触れ穏やかな表情をされる入居者様、かき氷レクの時には顔を響め冷たそうな表情をされている入居者様、屋台レクやクリスマス会の際には普段食事やおやつをあまり召し上がりられない方も手に取って沢山召し上がり、入居者様から「おいしい」「にぎやかで楽しい」といったお声も頂き、一つ一つの行事において個性豊かな表情をされる入居者様と日々一緒に時間を過ごさせて頂く私たち職員も大変嬉しく心暖かな気持ちになります。様々な制限があるなか今後も入居者様にとって一つでも多くの楽しみや行事・イベント等を提供・企画運営出来るよう職員一同努めて参りたいと思います。

豊かな生活と共生

特養二階介護職員 江袋 淳

新型コロナウイルスが流行し始めてからも

うすぐ三年が経とうとしており、コロナ禍についての共生が課題となる今日この頃。施設においても予防・感染の拡大を防ぐことを職員一丸となつて取り組んでおります。ご家族様のご面会時にも感染予防対策のご協力いつもありがとうございます。ご家族様とお会いされている時のご入居者様の笑顔を拝見しますと大変嬉しく感じしております。

外出に制限が掛かり、ご入居者様と一緒に季節を感じる事が難しい昨今。施設ではベランダをお散歩されプランターの草花を觀賞、気温や清風を感じて頂き、踊り場から眺める景色、夏には田畑の青々しさ、段々と実る稲、秋には収穫され気付けば木々は紅く染まり日々のうつろいを一緒に感じております。

また川越市市政百年に伴い、夏に駄菓子レクを開催し昔懐かしいお菓子を召し上げられたり、秋には屋台お祭りレクを開催、たこ焼き、おでん、たい焼き、焼きそば、あんみつ等々、ご入居者様に召し上がりたいものを好きなだけ選んで頂きお祭り気分を存分に堪能して頂きました。

今後もコロナ禍において変化や対応に迫られることがあると思いますが、ご入居者様に豊かな生活をご提供できるようチームケアで生活支援に取り組んで参ります。



川越まつり

デイサービス介護職員 関口 美穂

新年明けましておめでとーございます。
皆様には健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年はウイズコロナが浸透し感染対策が日常になったこともあり、マスク着用や外出時の規制などが緩和された1年でありました。

それに伴い各地でイベントやお祭りなどが復活し話題になりました。

川越でも市制100周年の記念すべき年に川越祭りが復活の運びとなりました。私は市内の囃子連で篠笛を担当しております。

コロナの影響でこの3年間は囃子練習も出来なくなっていました。祭りの復活を待ち望み自主練習を続けてきましたので、復活のニュースを聞いた時は心が躍りました。当日は全員がコロナを広げない・貰わないと言う意識の下、事前の抗原検査や健康チェックなどの感染対策を行いマスク必着で臨みました。川の流れの如き人混みの中を絢爛豪華な山車が勇壮に進みます。辻々で山車がひっかわせ、睨み合い競演し、人々を魅了していました。その独特な雰囲気、酔いしれながら私も夢中で笛を吹き続けました。夢のような非日常はあっという間に過ぎてしまい、心地よい疲れと余韻を残してまた次の祭を心待ちにする日常が戻りました。

思い返してみると人との関りや繋がりは自分の宝だと再認識した2日間でした。

古の伝統を引き継いで行くと共に、ご縁を大切に感謝を忘れずに今後も稽古し続けて行きたいを思います。



入職した経緯と今年の抱負について

ショートステイ介護職員 黛 桃子

私は昨年4月に八瀬の里に入職し、初めて福祉の世界に入りました。前職は建設会社勤めており、高校と大学も土木について学んでいたため、福祉とは離れたことをずっとしてきました。

そんなわたしが、何故この業界に興味を持ったのか、それは建設業では人と関わるのが少なかったことです。自分自身を成長させるためにも、多くの人と関わるような仕事をしたいと、母の仕事の話聞いてるうちに、気持ちの変化がありました。仕事を辞め、社会福祉士の専門学校に入学すると、福祉の世界がどのような物なのか学ぶことが出来、より興味が強くなりました。

八瀬の里に入職し、利用者様、職員の方と関わり、コミュニケーションを取ることで自身を成長させる為には多くの人と関わり、意見を取り入れていくことが必要だと、強く感じる事が出来ました。利用者様は私よりも何十年も人生の先輩であり、様々な経験をされています。そのような体験を聞くことができるのも、この仕事、福祉の仕事のいい所だと働きながら感じています。

まだまだ経験不足の為、今年は技術力を磨きつつ、利用者様とのコミュニケーションを多くとり、自分自身の成長にも力を入れていきたいと思っています。今後も宜しくお願いたします。

アルコールのはなし

管理栄養士 山田 みゆき

毎日のお仕事お疲れさまです。仕事終わりのお酒は美味しいですよ。最近、新型コロナウイルス感染症予防のため家飲みが当たり前になっていますが、家だと安心感があるからか、ついつい遅くまで飲んだり量が増えたりしますよね。結果、一日酔いに…。そもそも人はなぜ酔うのでしょうか？

お酒を飲むと血中アルコール濃度が高くなります。それにより脳の理性や判断をコントロールしている部分が麻痺してしまうのです。それが『酔った状態』翌日の仕事に支障がないように少しでも早くアルコールを抜きたいものですが、アルコールが抜けるにはまあまあの時間が必要です。

お酒に含まれるアルコールは、飲んで吸収された後に肝臓の酵素の働きによってアセトアルデヒドという物質に分解されます。アセトアルデヒドは別の酵素によってさらに分解され、水と二酸化炭素になります。分解された水は尿等から、二酸化炭素は呼吸から排泄され、この工程を何度か繰り返して血中のアルコール濃度が下がりお酒が抜けていくという仕組みです。アルコールが抜けるまでの時間は、一般的にビール500mlで3〜4時間かかるといわれていますが、アルコール分解能力には個人差があり、5時間以上経っても残ることがあります。また、寝ている間は内臓の動きも穏やかになっているので、起き

ている時よりもアルコールを分解するのに時間がかかってしまいます。『一晩寝れば大丈夫!!』と思っているそのあなた、それは大きな間違いですよ。

社有車を運転する方のアルコールチェックが義務化されています。自分の適量を見極めて、美味しく楽しくお酒を飲みましょう。



【編集後記】

八瀬の里だより委員 田中 幸一

あけましておめでとございます。感染対策の中、原稿をなんとか集めて無事に八瀬の里だよりを発行できたのでとても安心しました。原稿を書いていただいた方にはとても感謝しております。ありがとうございました。

さて皆様、元旦は何をなさっておりますでしょうか？私はここ数年同じ事を行っております。元旦の早朝。まだ日の出前に家を出て、初日の出をドローンで撮影しております。寒さが厳しい中、一人でドローンです。昨年航空法が変わりドローンの飛行が厳しくなりました。ドローンは日の出から日の入りまで飛行が可能。日の出前の飛行は夜間飛行になるので許可申請が必要です。今回はもちろん許可はあるので飛行可能となっています。

今回も極寒の元旦。きっと飛行をしている事でしょう。そして家に帰って温かいお雑煮を食べるのが楽しみです。コロナは続きますが皆様にとりまして良いお年でありますようお願いいたします。

